

ご近所の お医者さん

482

松島眼科院長 **松島正史さん** 一門真市



白内障手術

目の水晶体(レンズ)が濁り、物が見えにくくなる白内障の手術は現在、国内で年間約100万件行われているとされます。手術では、目から濁った水晶体を取り出し、代わりに人工の水晶体(眼内レンズ)を入れるのが一般的です。

私が医師になったのは35年ほど前、

前は、眼内レンズはまだ一般的ではありませんでした。先輩医師の指導を受けながら、初めて執刀したのは「水晶体

術式進化で患者負担減

「白内障手術」といわれるものです。水晶体は囊という袋の中に皮質や核と呼ばれる中身が入っており、その袋ごと全て取ってしまう方法です。この方法では角膜の周囲約半周に及ぶ直線での切開が必要で、手術時間も

創もやや小さくなりました。残した水晶体囊の中に眼内レンズを入れる術式が一般的になります。

現在では、超音波で固い水晶体核を砕いて取り除く「水晶体乳化吸引術」が主流となり、眼内レンズも折り畳んで入れられる柔らかい物ができ、切開創は3mm以下となっています。切開創が小さいので縫う必要がなくなり、手術時間も10分前後と短くなりました。

30分以上かかることが多く、術後管理も大変で約1週間の入院が普通でした。また、眼内レンズがなかったため、術後は分厚い眼鏡やコンタクトレンズが必要でした。手術を受ける患者さんも、かなり白内障が進行し、高度の視力障害の方が大半でした。

その後、「水晶体囊外摘出術」に変わります。これは、水晶体囊を残し、中の核を丸ごと取り出す方法で、切開

術後管理も以前より楽になり、日帰り手術が可能で、翌日から眼帯を外し、日常生活もほぼ支障なく送れます。眼内レンズは多焦点型や乱視矯正用を選ぶこともできます。

気軽に白内障手術を受ける方が増えました。術後感染症などの合併症はまだなくなっています。手術を受ける際は、合併症の可能性も念頭におき、主治医とよく相談して慎重に決めたい。今も昔も変わらない基本です。